

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑦

慢性痛とペインクリニック

体の痛みと戦い、悩む毎日に一筋の光を当てるペインクリニックとは一体どんな治療法なのかを、梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が分かりやすく説明してくれるこのコラム。第7回のカルテは「帯状疱疹(ほうしん)〈その1〉」です。

帯状疱疹は高齢者や4日たつて水痘(水ほ)痂皮化(かさぶた)し低抗力の低下した人(うそう)を形成、やがて治ります。

よくみられる、ウイルスで膿疱(のうほう)化(子供の時に感染したス(ヘルペス)による)した後、びらんや潰瘍(水痘が治った後、水痘病)気です。通常は体の(かいよう)を形成し、帯状疱疹ウイルスが三左右どちらかに神経痛様の痛みが出て、その後、虫刺されに似た紅斑(こうはん)や丘疹(きゆうしん)が出ます。3、

場合は静かにしていても、体力が低下すると動き出します。がん患者、エイズ患者など免疫不全状態では高率に発症します。病気がなくても高齢者は栄養不足、睡眠不足などで低抗力が低下すると生じ、若い人でも強い免疫が保たれている治します。やっかない

抵抗力の低下で起こる帯状疱疹 早期の治療で神経痛予防が大切

又(さんさ)神経節やトレス、過労などでも脊髄(せきずい)後根起(ごこん)こります。

長い間おとなしくして、下腹部、腕や足など、動を始める帯状疱疹どこにでも生じます。

このウイルスは人ので3〜4週間程度で完

ことは、時に強い神経痛を引き起こすことで、帯状疱疹ウイルスは神経節に隠れているため、再び活動を始める強い痛みを引き起こし、三又神経痛、肋間(ろつかん)神経痛、座骨神経痛など皮疹が出た領域に神経痛が出ます。高齢者ほど、また発疹が激しいほど神経痛が出やすく帯状疱疹が治った後も神経痛が残ります。

皮疹が治った後に神経痛が残るものを「帯状疱疹後神経痛」と言い、難治性疼痛(とう)の一つになっています。これについては次回詳しく述べることにします。

帯状疱疹後神経痛にならないためには、早期の帯状疱疹の治療が欠かせません。抗ウイルス薬はウイルスに直接作用し、増殖を阻止したり病気の進行を止め、治癒を早めます。更に帯状疱疹後神経痛をかなり予防できるのです。しかし、帯状疱疹がはじめて7日以内に投与しなければ効果は期待できません。早めに皮膚科の診察を受けることが肝要です。

痛みが強い場合は硬膜外ブロック、交感神経ブロックをはじめとして各種神経ブロックが効果的です。また抗うつ薬や抗けいれん薬も疼痛緩和が期待できます。まずは専門医にご相談ください。

今回は「帯状疱疹後神経痛」についてです。

次回「帯状疱疹後神経痛」についてです。

お問い合わせ先 梶木病院(西)

〒209-3355 代花尻1231-1



香曾我部義則先生

プロフィール ころそかべ・よしのり 昭和54年3月 岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属